

28P-am323

「早期体験学習」の薬学教育効果に関する検討（第4報）

○八田 有洋¹, 八尋 直之¹, 長田 博¹, 小宮 克美¹, 中林 恵子¹, 津田 泰之¹,
内山 純子¹(¹横浜薬大)

（目的）薬学生が入学後早期に薬剤師や薬学出身者が活躍する現場、業務を見学・体験することは、薬学履修のモチベーションを醸成するうえで有効であると考え、本年度も体験学習を実施し、教育効果を検討したので報告する。

（方法）1年生全員を対象に夏休み中、横浜市内を中心に病院、薬局、研究所、それぞれ27、23、9施設の協力を得て実施した。本年度も事前学習会を企画し、「病院と病院薬局の業務」、「保険薬局について」、「会社並びにOTC関連の概要」、「人にやさしい医療の創造と普及を目指して」、「血液センターにおける薬剤師」、「製薬企業と薬学部人材」と題する講義を学外から6名の講師に依頼した。学生には、施設見学の訪問先希望調査を実施するとともに、受け入れ施設に関してのwebなどによる事前学習を課した。当日は1施設1名以上の教員が引率した。本学習の運営にあたり、独自のソフトウェアを駆使した。また、体験学習の一環として、希望者を対象に救急救命法（心肺蘇生法、AED）の講習を昨年引き続き、消防署職員の指導のもとに本学体育館において実施し、アンケートを課した。

（結果および考察）98%の学生が「早期体験学習により学習意欲が向上した」と回答した。「印象に残ったこと、考えたこと」に関して[安心、安全、正確、信頼]、[責任]、[チーム医療、連携]、[コミュニケーション]のキーワード選択が多いことは、薬剤師業務の目に見えない部分を知り、社会において果たす役割について本学習を通して十分理解できたものと考えられる。また、救急救命法では、「AEDの取扱いに関する知識を理解できたか」に100%が、「習得した知識や技術を緊急時に実践できる自信があるか」に80%が「はい」と回答した。

以上の結果を考慮して、学生のモチベーションの更なる醸成をめざしたい。